

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ	担当教員	教授 若崎淳子 他		
開講年次及び学期	3年次後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	135	単位数	3
授業の目的(概要) 成人期の特性を踏まえ、慢性期にある対象を全人的に理解し、QOLの維持向上を目指し、患者の健康問題に応じた看護の実践を学ぶ。そして、臨地での実践的学習を通じて、慢性期看護やがん看護に関する看護実践能力を培う。					
学修成果(到達目標) 1.成人期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、慢性期にある患者を全人的に理解する。 2.成人期の身体機能と慢性期にある患者の病態、治療・療養過程、セルフケア能力との関連から、患者に必要な看護を判断する。 3.慢性期にある患者の看護上の問題を明確化し、必要な看護を計画立案・実施・評価する。 4.長期にわたり治療を受けながら生活する患者とその家族の心理的状況を理解し、患者とその家族と適切な人間関係を築く。 5.看護実践の見学や体験を通して、終末期にある患者とその家族を理解し、QOLの維持・向上に向けた看護について考える。 6.がん患者の全人的苦痛(トータルペイン)を理解し、緩和ケアの実際を理解する。 7.保健・医療・福祉などの多職種連携や協働の必要性を理解し、医療チームにおける看護職の役割と他職種との連携の実際を学ぶ。 8.患者の意思決定を支え、実践を通して対象の人権を尊重した態度を身につける。 9.安全な医療・看護の提供に関する基礎的知識と技術を身につける。 10.実習を通して自己の学習課題に取り組める。					
キーワード 臨地実習・慢性期看護・がん看護・緩和ケア・看護過程・看護実践・全人的理解・生活者・治療継続・セルフケア支援・QOL維持向上・意思決定支援・多職種連携と協働・チーム医療・医療安全・看護理論・EBN					
授業の進め方 1.先端がん治療センターや慢性期病棟において、治療過程にある・慢性期にある成人期の患者1名を受け持ち、看護過程に沿って看護を展開する。 2.緩和ケア病棟において、担当看護師と共に行動し、緩和ケアの実践の見学や看護体験を行なう。 3.本学行動指針のフェーズが上がった場合には、実習内容及び実習展開方法を変更し実施する。					
成績評価の方法(合否基準) 実習目標の達成状況と、次の内容により総合的に評価する。 1.看護過程展開状況 2.実習期間中に提出される実習記録の内容 3.実習への取り組み姿勢(誠実性、向上心、学習者としての主体的な学びの態度、援助者としての自己の客観視、人権への配慮、安全な看護実践に対する責任、自己の心身の健康保持) 4.カンファレンスへの参加状況					

教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

・別途、Moodle上に「実習の手引き」を示す。

オフィスアワー

事前のメール等によるアポイントメントにより、随時対応します。

モデル・コア・カリキュラムとの関連

A-1 プロフェッショナリズム

A-1-1)看護職としての使命、役割と責務

A-1-2)看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護

A-1-3)看護倫理

A-2 看護学の知識と看護実践

A-2-1)学修の在り方

A-2-2)看護実践能力

A-3 根拠に基づいた課題対応能力

A-3-1)課題対応能力

A-4 コミュニケーション能力

A-4-1)コミュニケーションと支援における相互の関係性

A-5 保健・医療・福祉における協働

A-5-1)保健・医療・福祉における協働

A-6 ケアの質と安全の管理

A-6-1)ケアの質の保証

A-6-2)安全性の管理

A-7 社会から求められる看護の役割の拡大

A-7-2)保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割

A-8 科学的探究

A-8-1)看護学における研究の必要性・意義

A-9 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢

A-9-1)自己研鑽の必要性と方法

B-1 人々の暮らしを支える地域や文化

B-2 社会システムと看護

B-2-1)健康の概念

B-2-2)環境と健康

B-2-3)生活・ライフスタイルと健康との関連

B-2-5)社会の動向と保健・医療・福祉制度

B-3 社会における看護職の役割と責任

B-3-1)看護職の法的位置付け

B-3-2)看護における倫理

C-1 看護学に基づいた基本的な考え方

C-1-1)看護の本質

C-1-3)看護の観点から捉える人間

C-1-4)看護過程

C-2 生活者としての人間理解

C-2-1)人間にとっての生活

C-2-2)個人と生活

C-2-3)生活環境としての場

C-2-4)地域社会における生活者

C-3 生物学的に共通する身体的・精神的な側面の人間理解

C-3-1)細胞と組織

C-3-2)生命維持と生体機能の調節

C-3-3)成長・発達と加齢、ヒトの死

C-4 疾病と回復過程の理解

C-4-1)病態の成り立ちと回復過程

C-4-2)基本的病因と病態

C-5 健康障害や治療に伴う人間の身体的・精神的反応の理解

C-5-1)病(やまい)に対する人間の反応

C-5-2)疾病の診断に用いる検査と治療

C-5-3)主な健康障害と人間の反応

C-5-4)薬物や放射線による人間の反応

D-1 看護過程展開の基本

D-1-1)看護の基礎となる対人関係の形成

D-1-2)多面的なアセスメントと対象者の経験や望み(意向)に沿ったニーズ把握

D-1-3)計画立案・実施

D-1-4)実施した看護の評価

D-2 基本的な看護技術

D-2-2)看護実践に共通する看護基本技術

D-2-3)日常生活の援助技術

D-2-4)診断・治療に伴う援助技術

D-3 発達段階に特徴づけられる看護実践

D-3-3)成人期にある人々に対する看護実践

D-3-4)老年期にある人々に対する看護実践

D-4 健康の段階に応じた看護実践

D-4-1)予防が必要な人々に対する看護実践

D-4-4)慢性期にある人々に対する看護実践

D-4-5)人生の最終段階にある人々に対する看護実践

D-5 心のケアが必要な人々への看護実践

D-6 組織における看護の役割

D-6-1)組織における看護活動

D-6-2)リスクマネジメント

D-6-3)保健・医療・福祉チームにおける連携と協働

F-1 臨地実習における学修

F-1-1)臨地実習における学修

F-1-2)臨地実習における学修の在り方

F-2-1)看護過程に基づくケアの実践

F-2-2)安全なケア環境の整備

F-2-3)チームの一員としてのケアの参画

G-2 看護学研究を通じた看護実践の探究

G-2-2)研究成果の活用の方法

成人看護学実習Ⅱ(実習病棟:島根大学医学部附属病院 A4病棟・C8病棟/C5病棟)

実習展開の概要

週数	場	曜日	内 容	
1週目	学内	月	実習オリエンテーション	
		火	学内実習:看護技術・看護過程等	
	A4 C8	水	臨地実習オリエンテーション(A4病棟・C8病棟) ・実習病棟の概要を知る。 ・受持患者を決定する。 受持患者へのあいさつ(含:インフォームドコンセント) ・病棟における看護の流れと看護活動の実際を知る。	<病棟内オリエンテーション> 病棟の構造と設備、看護体制、患者の特徴と看護の特殊性、看護記録、受持患者について等 <受持患者の看護過程の展開>
		木・金	・受持患者への看護を、担当看護師や担当教員の指導を受けながら実施する。 ・援助を通して、受け持ち患者の理解に努める。 ・受持患者の看護上の問題を明らかにし、根拠に基づく看護計画を立案する。 ・立案した看護計画に基づき、担当看護師の指導を受けながら受け持ち患者に実施する。	・アセスメント:情報収集・整理、分析 ・看護上の問題の明確化 ・計画立案、計画に基づく実施
2週目	A4 C8	月～金	・自己評価(中間):火曜日 ・看護計画を評価・修正し、担当看護師の指導を受けながら、受持患者に実施する。 ※水曜午後:学内実習 思考や記録・看護過程の整理 ・受持患者への看護を創意工夫し、担当 看護師や担当教員の指導を受けながら実施する。 ・援助を通して、受持患者の全人的理解に努める。 ・自己の看護実践を評価する。	<中間カンファレンスの開催:火曜日午後 但し火曜日が祝祭日の場合は木曜日とする。> <受持患者の看護過程の展開> ・計画に基づく実施 ・評価(含:追加・修正) <病棟での実習振り返り会の開催:金曜日午後>
		月	A4病棟実習生:C5病棟で実習 C8病棟実習生:学内実習	・C5病棟では、担当看護師と共に行動し、緩和ケアに関する看護活動を見学・体験する(含:病棟でのカンファレンス)。
3週目	C5	火	C8病棟実習生:C5病棟で実習 A4病棟実習生:学内実習	
		水	午前:受持患者の看護過程実習・事例発表会(実習病棟単位) 午後:統合カンファレンスの準備・発表用資料の作成(実習病棟単位)	
	学内	木	午前:統合カンファレンス テーマ「病をもつ生活者としての対象の理解と看護」(資料:A3判1枚) 午後:思考・実習記録の整理	
	学内	金	実習総括 ・自己評価(最終)	実習記録の提出

[実習時間:A4病棟・C8病棟]

- ・学内にて体調確認(含:体調チェックシート)後、8時30分着で実習病棟に行く。
- ・8時30分から、病棟の管理申し送り・PNSミーティングに参加する。
- ・9時～9時30分、各自その日の実習行動計画を発表し、指導や助言を受ける。
- ・実習行動計画を発表後、ベッドサイドケア(~15時30分)
- ・15時30分～16時 学生カンファレンス
- ・学生カンファレンス後、学内に戻り、記録や思考の整理(16時30分まで)